

**TÌNH HÌNH GIẢNG DẠY MÔN HỌC
ĐẤT NƯỚC-VĂN HOÁ NHẬT BẢN
CHO SINH VIÊN ĐẠI HỌC CHUYÊN NGÀNH TIẾNG NHẬT
TẠI TRƯỜNG ĐẠI HỌC HÀ NỘI**

TRƯƠNG THỊ MAI*

"Đất nước-Văn hoá Nhật Bản" là một môn học bắt buộc trong chương trình đào tạo cử nhân tiếng Nhật. Theo Chương trình khung đào tạo cử nhân tiếng Nhật hiện đang được áp dụng tại Khoa tiếng Nhật, Trường Đại học Hà Nội, kể từ khoá đào tạo 2005-2009, số đơn vị học trình (ĐVHT) của môn học này từ 3 tăng lên thành 5 ĐVHT nên cần có những bổ sung cải tiến về nội dung giảng dạy cho phù hợp với yêu cầu mới. Với mục tiêu đó, để có được một cái nhìn tổng quát về thực trạng giảng dạy môn học này, chúng tôi tiến hành điều tra sinh viên khoá đầu tiên học môn "Đất nước-Văn hoá Nhật Bản" theo chương trình mới, nhằm tìm hiểu nguyện vọng cũng như ý kiến của sinh viên, qua đó rút ra những bài học kinh nghiệm, và đề xuất cải tiến nội dung và các hoạt động trên lớp cho môn học.

Đầu tháng 9/2008, chúng tôi đã tiến hành điều tra và nhận được sự hợp tác của 76 sinh viên năm thứ 3 (khoá 2005-2009). Sau khi tiến hành xử lý và khảo sát kết quả, chúng tôi xin được đưa ra một số nhận định sau:

- Đối với sinh viên, "Đất nước-Văn hoá Nhật Bản" là một môn học cần thiết, mang lại cho họ kiến thức về Nhật Bản - một điều không thể thiếu với người đang học tập tiếng Nhật và sử dụng tiếng Nhật để làm việc trong tương lai.

- Giờ học "Đất nước-Văn hoá Nhật Bản" hiện nay tuy đã phần nào đáp ứng được nguyện vọng của sinh viên về mặt kiến thức liên quan đến đất nước và văn hoá Nhật Bản song chưa thực sự trở thành một môi trường tốt để rèn luyện tiếng Nhật ở trình độ cao cấp tương ứng với học phần 5. Điều này đòi hỏi giáo viên cần có những cải tiến để tạo môi trường học tập tiếng Nhật tốt hơn trong giờ học này.

- Về nội dung giảng dạy, cần lưu ý tăng cường những nội dung như "Kinh tế" hay "Văn hoá của người Nhật", là những nội dung rất được quan tâm.

- Về các hoạt động trên lớp, hiện nay giáo viên vẫn còn chú trọng nhiều vào việc giải thích theo sách hay giáo trình, chưa có những hoạt động giao lưu với người Nhật hay tạo điều kiện cho sinh viên được tiếp cận trực tiếp với văn hoá Nhật Bản.

* ThS., Khoa tiếng Nhật, Trường Đại học Hà Nội

Trên cơ sở những kết quả thu được, chúng tôi chủ trương đổi mới nội dung giảng dạy, tổ chức giao lưu với các giáo viên người Nhật về chủ đề Đất nước-Văn hoá Nhật Bản. Đồng thời, tăng cường những hoạt động đã có như cho sinh viên tìm hiểu và phát biểu về các lĩnh vực liên quan, bổ sung các tài liệu nghe nhìn trên lớp...

Bài viết này mới chỉ giới hạn điều tra và đánh giá môn học qua ý kiến của sinh viên trong phạm vi Khoa tiếng Nhật. Chúng tôi hy vọng trong thời gian tới có thể tiếp tục mở rộng phạm vi điều tra cũng như tham khảo thêm nhiều ý kiến của các giáo viên trực tiếp giảng dạy môn học này tại các cơ sở đào tạo tiếng Nhật khác cũng như ý kiến của sinh viên đã tốt nghiệp để có được sự so sánh và một cái nhìn khách quan hơn.

ハノイ大学における日本語学部生向けの 「日本事情・日本文化」教育の現状 —学部生に対するアンケートに基づいて—

1. 研究背景

ベトナム教育訓練省が規定した日本語学士養成コースのカリキュラムでは、「日本事情・日本文化」が必修科目とされているが、どんな教材、どのように教育するかはそれぞれの教育機関により適宜決められるというのは今の状態である。そのカリキュラムを遵守して、ハノイ大学の日本学部は「日本事情-日本文化」という科目を実施しているが、不十分なところはかなり残っているという声が教師からも学生からも聞こえている。しかし、これまで、それを確実に把握するためのアンケート調査などは行われていない。

「日本事情-日本文化」は常に 5 学期に教えられるとなっている。この時期は、学部生が「日本語の演習」が終わり、「日本語の翻訳・通訳の演習」をはじめるところである。そのため、「日本事情-日本文化」は学部生に翻訳・通訳でより効果的に学習できるための日本についての基本的な知識を与える授業であり、上級の日本語演習の授業として、日本語の語彙、表現など豊かにする授業でもある考えられる。また、2005 年以降入学の学生に対するカリキュラムには変更があって、「日本事情」の単位数が 3 単位から 5 単位増えたということになった。そのため、それまでに使用されていたシラバスとそれに沿った教材は新しい要求に対応できないものとなり、補足が必要となる。そのため、当学部の「日本事情・日本文化・日本文学」部門は、その補足を行われなければならないという立場になり、一歩ずつシラバス、教材及び教授法を進めている。たとえば、今まで取り上げられなかった「年中行事」「日本の食文化」「伝統

芸能」などのテーマを補足し、発表会を行い、学生に日本に関することを調べてから発表してもらうという活動を試みた。しかし、これらの改善は本当に良いのかは学生の評価がまだ把握していないのだ。

上述した背景の中で、「日事情・日本文化」の一部を担当している筆者は全体的に本学における「日事情・日本文化」教育の状況を把握した上で、適切な改善案を提言できればと考え、本研究を行うことにした。

2. 研究目的

本研究は、以下のことを明らかにすることを目的とする。

①日本語の学部生が「日事情・日本文化」という科目についてような意識を持っているか。

②現行の日事情の授業は日本語学習、特に翻訳及び通訳の演習にどのように役に立っているか。

③学部生に対する「日事情・日本文化」の内容として、何を教育すればいいか。また、授業ではどんな活動がいいのか。

④以上で分かったことを踏まえ、「日事情・日本文化」の授業を改善する提案を提出する。

3. 研究方法

本研究では、上掲の①～③の課題を明らかにするために、アンケート調査を行い、そして調査で得たデータを処理した上で、当学部の状況を考慮しながら、当学部で実施できそうな改善案を提出する。

アンケート調査においては、学部生のみならず「日事情・日本文化」を担当している教師に対しても行わなければならないと思われるが、今回の研究はハノイ大学における「日事情・日本文化」教育の現状と言う範囲を事前に決め、この科目を担当する教師は2人しかいないという理由があつて、学生に対する調査のみ実施することにした。

3.1. アンケート票に関して

ベトナムでは、日本語学習者に対する「日事情・日本文化」教育に関する研究はまだ見られないのが現状である。また、「日事情・日本文化」教育に関する研究において、日本で留学している人ための「日事情・日本文化」教育の研究がかなり多いが、海外での日本語学習者向けの「日事情・日本文化」の教育に関する研究は筆者の検討で少ないと言える。その中で、譚建川(2006)は教師及び学生に対するアンケート、インタビューなどにより中国にお

ける「日本事情」教育の現状を概括的にまとめ、詳しく分析した。本研究では、参考にした上で、譚 建川(2006)が作成した学生に対するアンケート票を使用し、自らの研究課題に必要だと判断した項目を加え、アンケート調査を行うことにした。具体的に、「日本事情・日本文化」の授業の内容についての質問において、翻訳・通訳の演習、アルバイトなどに本当に役に立ったと思うか、「日本事情・日本文化」の授業から得た知識を翻訳・通訳の演習に運用できるかという項目を添えた。調査内容は以下の通りにまとめられる。（具体的な内容は資料 1 をご参照のこと）

① 回答者の情報：名前、クラス、年齢、性別、日本滞在経験、日本語能力、日本についての知識を身に付けた方法

② 「日本事情・日本文化」授業に対する意識（必要かどうかとその理由、この授業で、何を獲得したいか）

③ 「日本事情・日本文化」授業の内容についての意識

④ 「日本事情・日本文化」授業の活動についての意識

3.2. アンケート調査の実施

2008 年 9 月の下旬、「日本事情・日本文化」を終了し、第 6 学期の翻訳・通訳演習を終えたハノイ大学日本語学部の 4 年生に対しアンケート調査を行ったこの対象者にしたのは、本研究で、「日本事情・日本文化」の授業と翻訳・通訳演習にどのように役立ったかと言う目的もあるためである。アンケートはベトナム版を使い、76 名に協力を得て回答してもらった。調査対象者の詳細は表 1 の通りである。

表 1：調査対象の概要

合計 76 名	年齢（歳）	20~25	73 名
		30~40	3 名
	性別	男性	4 名
		女性	72 名
	日本語能力	3 級程度	22 名
		2 級程度	52 名
		分からない	2 名
	日本滞在経験	ない	73 名
		ある	3 名（4 ヶ月以上：2 名、10 日間以下：1 名）

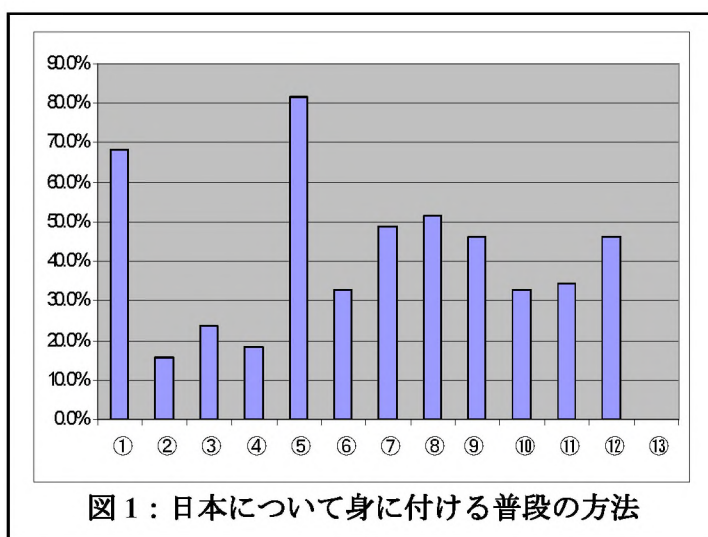
4. 調査結果及びその考察

4.1. 日本に関することを身に付けている普段の方法

アンケート票の 1 ページ (資料 1) に記載してあるように、学部生が使っている方法が 12 項目取りあげられ、「その他」の欄も用意される。

- ① 「日本事情・日本文化」科目
- ② 他の科目
- ③ 参考書、専門書
- ④ 日本テレビ・ラジオ番組
- ⑤ インターネット
- ⑥ 日本の歌
- ⑦ 日本の映画、ドラマ
- ⑧ 日本の漫画、アニメ
- ⑨ 日本の雑誌、新聞
- ⑩ 日本人の友達
- ⑪ ベトナム国内のテレビ・ラジオ番組
- ⑫ ベトナム国内の新聞、雑誌
- ⑬ その他 (具体的に_____)

調査結果は、図 1 に示しているものである。図 1 を見ると、学部生が日本について普段身に付けている方法としてインターネット (80%以上)、「日本事情・日本文化」科目 (約 70%) は他の方法より著しく高いということが分かる。インターネットの普及により、学生たちが簡単にインターネットが使えるようになった背景では、日本について知りたいことがあればすぐインターネットで調べられるというのが理解しがたいものではない。けれども、70%以上が「日本事情・日本文化」科目を日本について身に付ける普段の方法とするという結果から、「日本事情・日本文化」科目は学生にとって大きな意味があり、大切な科目であると言える。



また、図 1 でも分かるように、最も低い率を占めているのは「他の項目」で、約 15%しかない。このことから、学部生が「他の項目」で日本について

てのことを意識していないのではないのかと考えられるし、「他の科目」を担当している教師が日本についてのことをあまり学生たちに話したり、説明したりしていないのではないのかも考えられる。これは、日本語演習及び各技能を指導する科目などでは、教師がこれまでより日本のことを紹介したり、説明したりするのが必要だと示唆するのだ。

4.2. 学部生の「日本事情・日本文化」授業に対する意識

「日本事情・日本文化」授業はどのように必要かという質問に対して、図 2 の通りの査結果を得た。

図 2 を見ると、100% の学部生が「日本事情・日本文化」授業の必要性を意識しており、そのうち、約 60 % も「日本事情・日本文化」授業がとも必要だと認めたということが分かる。その理由を記述の部分で検討してみたら、「日本語を勉強していのに、日本事情、日本文化について分からないと困りますから」という理由が多数であった。その中で、「日本事情・日本文化」の授業の役割を高く評価するのが見られた。例えば、

〔S4〕：「「日本事情・日本文化」の授業は私たちが新聞などでなかなか得られない日本についての知識を与えてくれます。」

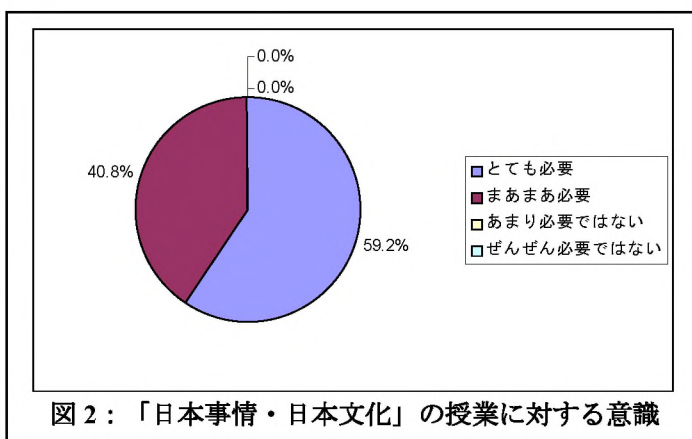
〔S23〕：「「日本事情・日本文化」の授業は私に、日本に関することをもたらし、日本語の勉強、特に日本語の翻訳・通訳に大変役立っています」

〔S70〕：「この授業から役に立ったことがたくさん身に付けられた。どうすれば身に付けられるか分からなかったことが多くて、先生に詳しく説明してもらってよかったと思います。」

などである。

このように、学部生たちは自分自身「日本事情・日本文化」授業の必要性を意識しているばかりではなく、その役割を大変評価し、この科目に対する大きな希望を寄せているのだと言える。では、具体的にこの授業を通して学部生たちが何を獲得したいのか、調査結果を見ていく。

この質問に関して、アンケートで学生たちが「日本事情・日本文化」授業を通して獲得したい項目が以下の 8 つ取り上げられた。



- ① 日本文化の知識を獲得する
- ② 日本語学習背景の知識を獲得する
- ③ 日本人とのコミュニケーションに役立つ知識を獲得する
- ④ 将来の仕事に役立ちそうな知識を獲得する
- ⑤ 自分が好きなことについて詳しく知る
- ⑥ 単語、表現を学習する。
- ⑦ 単位をとる。
- ⑧ その他（具体的に_____）

アンケート票では3つ選び順番に付けてもらうという形であるが、実際の調査結果で、3つ選んでいたが順番に付けてくれなかったケースが多かった。そのため、各項目がどんな比率で選ばれたかということで、獲得したい目的の順番を決めるというふうにした。そして、データを処理した結果、図3の通りの結果を得た。

図3で示されているように、学部生が「日本事情・日本文化」授業を通して最も獲得したいのは①「日本文化の知識」（90%弱）であり、次いでは③「日本人とのコミュニケーションに役立つ知識」（75%強）である。また、②「日本語学習背景の知識」及び④「将来の仕事に役立ちそうな知識」は他の項目に比べ、かなり高い率であるが両方とも50%にならない、最も面白いのは、⑥「単語、表現」を学習するという目的は5.3%で、極めて低い比率しか占めていないのだ。このことから、学部生が、「日本事情・日本文化」授業を通して、日本語に関する知識、日本語の学習よりも日本に関する知識を大切にしているのが分かった。

研究背景で述べたように、「日本事情・日本文化」の授業は上級の日本語演習の授業として、日本語の語彙、表現など豊かにする授業でもある考えられるが、この調査結果から、実際の「日本事情・日本文化」授業はにその目的を達成していないと言える。つまり、現行内容、教授法では、この授業が学部生にとって、単なる日本の知識を与えるものであり、本当に日本語学習の役立つ場になっていないわけだ。言い換えれば、せっかく「日本事情・日本文化」の授業は主に日本語で行われ、基礎の日本が終わった学部生に対する実施する授業であるものの、実際では学部生の日本語の学習にあまり役立っておらず、日

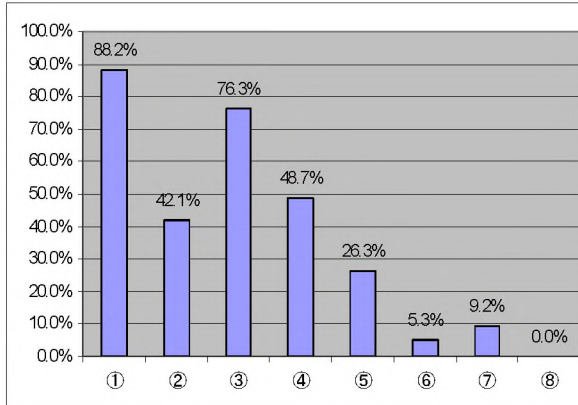


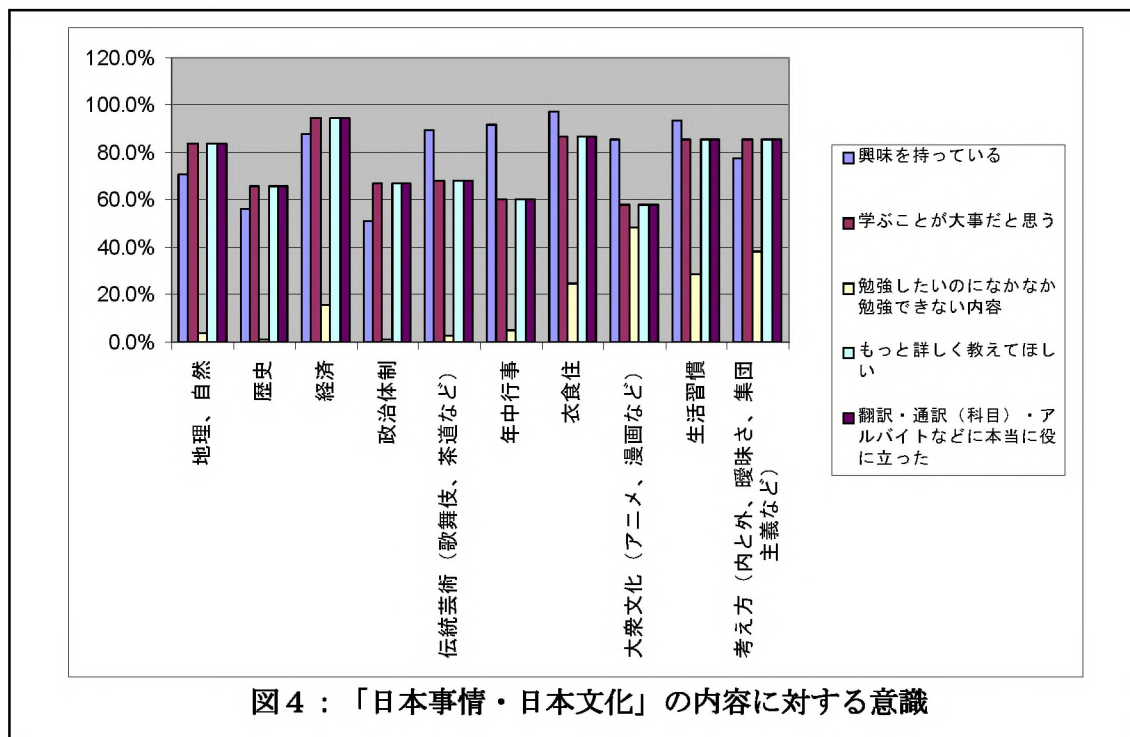
図3：「日本事情・日本文化」の授業を通して獲得したいこと

本文化に関するベトナム語での授業とは違いが見られないのだ。これは残念なことであり、現行の授業の内容はもちろん、教授法や授業での活動などについて見直すべきだ。

4.3. 「日事情・日本文化」授業の内容について

本節では、「日事情・日本文化」の内容が学部生にどのように意識されているかを検討する。

以下の図 4 は、「日事情・日本文化」の授業の内容についての学部生の意識を表すもので、これにより分かったことが主に以下の 5 点にまとめられる。



1) 取り上げられた内容はすべて学部生に興味をもたらし、どれも 50%以上占めている。その中で、「衣食住」「生活習慣」、「年中行事」、「伝統芸術」、「大衆文化」、「考え方」などの文化的なものが約 90%も占めていることに対して、「歴史」、「政治体制」は約 50%で、それほど高くない。また、「経済」は学部生が大きいな興味を思っているもので、約 90%も占めている。

2) 学部生にとって、学ぶことが最も大事なものは「経済」であり、その次は「地理・自然」、「衣食住」、「生活習慣」、「考え方」である。面白いのは、「歴史」、「政治体制」には「年中行事」、「大衆文化」ほど興味を持っていないものの、学ぶことがもっと大事だとしているのだ。

3) どの内容を見ても、「学ぶことが大事だ」という意見が「もっと詳しく教えてほしい」と比例である。

4) 取り上げた内容の中で、「勉強したいのになかなか勉強できない」のは「大衆文化」、「考え方」、「生活習慣」の比率が目立っている。これは授業で教えていない現状を反映しているのだ。

5) すべての内容が翻訳・通訳の学習・アルバイトなどに役立ったと意識している。その中で、「経済」は約 95%で、「衣食住」、「生活習慣」、「考え方」、「地理自然」は 80%以上も占めている。

「日本事情・日本文化」の授業の内容に関しては、学生の興味を大切にしながら、にその内容が本当大事なのか、役立っているのか検討する必要がある。上述の 5 点からは、「経済」「歴史」「政治体制」は欠かせない内容であり、日本人の「考え方」は補足すべき内容だと分かった。そして、その他の内容は現在行っているが、どの程度で学部生に指導するか時間、教師などの要素によって調整しなければならない。例えば、「大衆文化」という内容は学生たちが興味を思っているものであるが、時間がなければ学習すべきではないものではないかと考えている。

4.4. 「日本事情・日本文化」授業での活動について

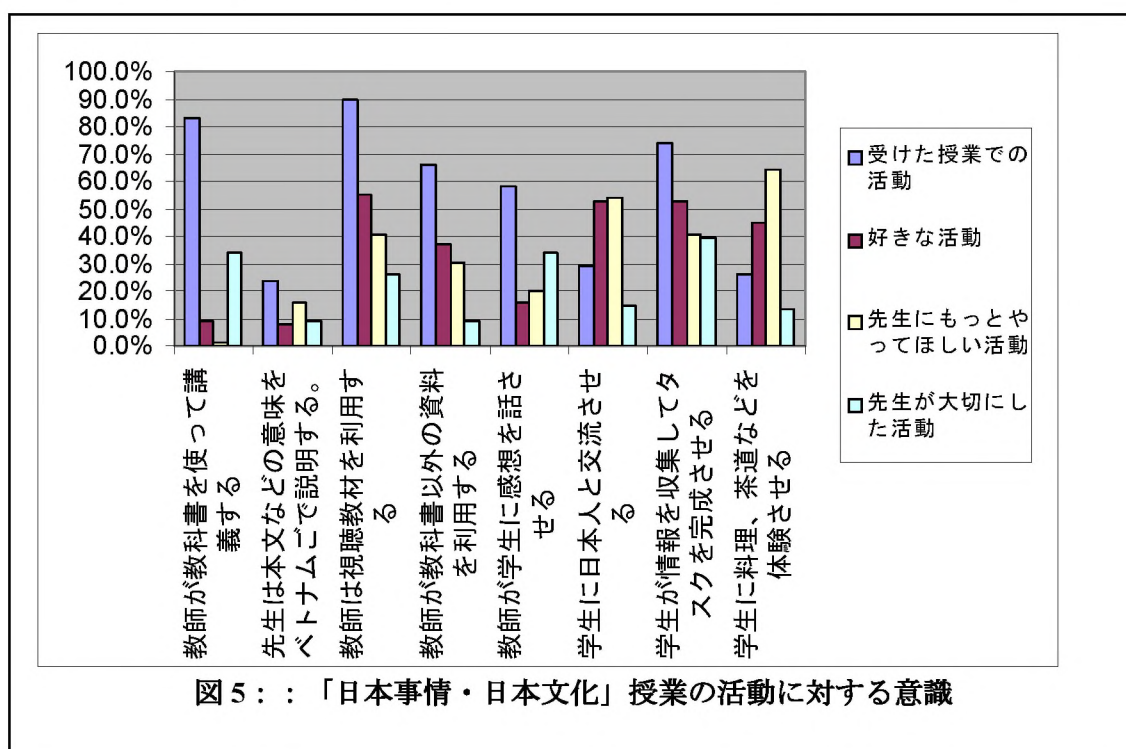
4.3 で「日本事情・日本文化」授業を内容の面で追求していたが、本節ではこの授業での活動を検討していく。

図 5 は「日本事情・日本文化」の授業での活動についての意識を表すもので、これにより分かることは以下の 3 点にまとめられる。

1) 現行の「日本事情・日本文化」授業での主な活動は「教師は視聴教材を利用する」(約 90%)、「教師が教科書を使って講義する」(80%以上)、「学生が情報を収集してタスクを完成させる」(約 75%)、「教師が教科書以外の資料を利用する」(65%以上)、「教師が学生に感想を話させる」(約 60%)である。

2) しかし、学生が最も好きな活動は「教師は視聴教材を利用する」、「日本時と交流する」、「情報を収集してタスクを完成させる」である。

3) 教師があまりベトナム語で説明していないし、日本人との交流チャンスが少なく、日本料理、茶道などを体験できていないと学部生が意識している。そして、これらの活動こそが、学部生が教師にもっとも増やしてほしい内容であるものの、教師が大事にしているのは「情報を収集してタスクを完成する」、「感想を話させる」、「教科書を使って説明する」という活動だ。



以上の 3 点から、教師が行っている活動と学部生が希望しているものになれがあるということが分かった。そのため、教師は自分が行った活動を見直し、適切に調整するべきだ。これに関して、学生に記述した部分から、いくつかの改善ができそうではないかと考えている。例えば、

〔S1〕：「日本人との交流会などを増やしてもらえればと思います。」

〔S25〕：「日本について調べるという宿題をもっとだしてほしいです。」

〔S32〕：「面白いスライドを使って「日本事情・日本文化」を指導すればと思います。」

〔S33〕：「発表会は一回ではなく、回数を増やしたらと思います。」

〔S35〕：「関連する映画を見せたり、日本人に来て話してもらえればと思います。」

〔S48〕：「学生たちが日本のことについて小論を書かせたらいいかもしれません。」

〔S54〕：「学生たちにお互いに日本に関する知識や情報を交換する場を作してほしいです。」

〔S59〕：「教師はベトナム語でもっと説明してほしいです。特に、難しい問題である。」

などが見られる。これらの意見は、現行の「日本事情・日本文化」の授業を改善する方法としていいものではないかと思われる。

また、この結果からも、現行の「日本事情・日本文化」の授業の活動において、学部生たちに本当に興味をもたらしめるものは少ないと分かった。確かに「視聴教材」の使用や「情報を収集してタスクを完成させる」のが行われたが、学部生が日本人と交流するチャンスや日本文化のことを体験できるチャンを増やすべきだ。この点においては、日本人の教師の協力が必要であり、授業を担当する教師が努力しなければならないのだ。

5. 「日本事情・日本文化」授業の改善提案

4 章から得た結果や考察を踏まえて、本章で現行の「日本事情・日本文化」の授業を改善する案をいくつか述べてみたい。

①授業に取り上げる内容を整理し、「経済」、「政治体制」、「歴史」「生活習慣」「考え方」など難しい内容とされる内容、あるいは大事だと意識されている内容は必ず授業に取り上げ、学部生に基本的に理解させる。そして、他の内容は学生に興味によって調べてから発表させたり、レポートを書かせたりする。

②視聴教材をより活用させ、関連映画や資料を豊富にするとともに、学生たちが、授業でお互いに意見交換できる時間を用意する。

③必要な場合、ベトナム語で説明し、学生が日本語の単語ばかりではなく、表現や話し方、発表の仕方まで意識させるようにする。

④日本人の教師をはじめ、日本人の知り合い、同僚の協力を得て、日本文化体験、日本人との交流会をできるだけ少なくとも 1 回行う。また、日本人にお願いして、ある特定のテーマについて話してもらう。

⑤他の科目を担当している教師と意見を交換して、これらの授業においても関連するものがあれば、学生たちに「日本事情・日本文化」を説明するようにと意識させる。

以上は、提案に過ぎないものであるが、実施するのは困難が多いはずがこれらを実施できれば、現行の「日本事情・日本文化」の授業はより効果的ではないかと思われる。

6. まとめと今後の課題

本稿では概括でありながら、本学での「日本事情・日本文化」教育の現状を学部生の意識をとして考察した。現行の授業はある程度学部生に日本に関す

る知識を与えているが本当の上級日本語演習の場になっていないということが分かった。その上、内容及び授業での活動に関しても見直し、改善案を提出することができた。ところが、本稿は、学生の意識のみにより考察したもので、不十分なところが残っているはずだと考えている。今回は本学のみにアンケートを実施したが、他の日本語教育機関においてもアンケートを実施し、調査結果を比較した上で改善案をしたほうがもっと客観的な知見が得られるのだ。また、「日本事情・日本文化」教育を担当する教師や卒業生にも意見を聞くのも必要だと考えている。これらは今後の研究で検討していきたい。

参考文献

- (1) 譚 建川 (2006) 「中国における「日本事情」教育の現状」『日本言語文化研究会論集』2006 第 2 号、59-81.
- (2) Chương trình đào tạo cử nhân tiếng Nhật ハノイ大学 日本語学部の資料
- (3) 日本事情」 ハノイ大学 日本語学部の自作教材

資料 1: 「日本事情・日本文化」という科目についてのアンケート
以下、現行の「日本事情」の授業を改善するために日本語学部生のあなたに「日本事情」科目に関してお聞きします。ご協力お願いします。

1. あなたの性別はなんですか。 ☐男 ☐女
2. あなたの年齢を教えてください。() 歳
3. あなたはどのくらい日本語を勉強しましたか。 _____ 年間
4. あなたの日本語能力はどの程度ですか。
☐日本語能力試験の 4 級
☐日本語能力試験の 3 級
☐日本語能力試験の 2 級
☐日本語能力試験の 1 級
5. 日本へ行ったことがありますか。
☐はい → どのくらい日本にいましたか。 __ 年 __ 月 __ 日
☐いいえ
6. 日本に関すること、特に日本文化について普段どのような方法で身につけていますか。

① 日本事情科目	⑧ 日本の漫画、アニメ
② 他の科目	⑨ 日本の雑誌、新聞
③ 参考書、専門書	⑩ 日本人の友達
④ 日本テレビ・ラジオ番組	⑪ ベトナムこくないのテレビ・ラジオ番組
⑤ インターネット	⑫ ベトナム国内の新聞、雑誌
⑥ 日本の歌	⑬ その他（具体的に_____）
⑦ 日本の映画、ドラマ	
7. 「日本事情」の授業についてどう考えていますか。
☐とても必要 ☐あまり必要ではない
☐まあまあ必要 ☐ぜんぜん必要ではない

* その理由を具体的に書いてください。

8. あなたは、「日本事情」科目の授業を通して、何を獲得したいですか。最大 3 つを選んで、重視する順位で番号を付けてください。

① 日本文化の知識を獲得する	()
② 日本語学習背景の知識を獲得する	()
③ 日本人とのコミュニケーションに役立つ知識を獲得する	()
④ 将来の仕事に役立ちそうな知識を獲得する	()
⑤ 自分が好きなことについて詳しく知る	()
⑥ 単語、表現を学習する。	()
⑦ 単位をとる。	()
⑧ その他（具体的に_____）	()

9. あなたに、「日本事情・日本文化」の授業の内容について聞きます。以下の票に記入してください。

具体的な項目	興味を持っていますか。 (持っているものに○、もっていないものに×)	学ぶことが大事だと思いますか。(当てはまるものに○)	勉強したいのになかなか勉強できない内容がありますか。(当てはまるものに○)	もっと詳しく教えてほしいものはありますか。(当てはまるものに○)	翻訳・通訳(科目)・アルバイトなどに本当に役に立ったと思いますか。(当てはまるものに○)
地理、自然					
歴史					
経済					
政治体制					
伝統芸術(歌舞伎、茶道など)					
年中行事					
衣食住					
大衆文化(アニメ、漫画など)					
生活習慣					
考え方(内と外、曖昧さ、集団主義など)					
その他(具体的に_____)					

10. あなたに「日本事情・日本文化」授業の活動について聞きます。

具体的な活動	あなたが受けた授業での活動はなんですか。 (当てはまるものに○)	好きな活動はなんですか。 (当てはまるものに○)	先生にもっとやってほしい活動 (当てはまるものに○)	先生は、どんな活動を授業でおこなうのが大事だと思いますか。 (当てはまるものに○)
教師が教科書を使って講義する				

先生は本文などの意味をベトナム語で説明する。				
教師は視聴教材を利用する。				
教師が教科書以外の資料を利用する				
教師が学生に感想を話させる。				
学生に日本人と交流させる				
学生が情報を収集してタスクを完成させる				
学生に料理、茶道などを体験させる。				
その他（具体的に①_____）				
その他（具体的に②_____）				

11. 「日本事情」の授業から得た知識は今受けている翻訳や通訳の授業に運用できますか。

- ☐ よく運用できる
☐ 時々運用できる。
☐ ぜんぜん運用できない。

12. あなたは自分が受けた「日本事情」科目について、改善してほしいことは何ですか。どのように改善すればいいか自由に書いてください。

ご協力、ありがとうございました。